

会津藩の財政を担った大金山

桧原 檜原歴史館 (北塩原村)



金の原石



金山露天掘跡



桧原金山の資料を展示している
「檜原歴史館」

桧原湖の北岸の金山にあります。
金山の検断屋敷を利用し、桧原金山
や民俗資料、山城の資料を展示して
います。食事できます。山塩ラー
メンがおすすめです。

Tel 0241-34-2200



檜原歴史館

金堀人足二千人以上がいた戦国の花、
桧原金山は、民謡「会津磐梯山」にも歌
われた「宝の山」です。磐梯山は、明治
二十一年（一八八八）七月十五日、大爆発
を起し、金鉱山は水没しました。

桧原金山は金銀を産し、会津藩の経済
を支え栄えていました。『檜原覚書』に
は、「慶長元年（一五九六）丙申年鳥屋
岑にて中常坊見立、大分に金銀掘出し候。
夫より内山並鳥屋岑から敷数五六十口付
け、数年大分に掘出し候よし」と書かれ
中常と云う人物が、用水を飲んで金の有
無を知ったとされていますが、それ以前
の葦名時代から露天掘りにより、金銀山
を採掘していました。中常坊は、高野山
の修行僧で、金銀に堪能でした。

江戸時代、桧原金山に関係する役人や
工人は、一五二〇人を数え、近隣の集落
を含めると二千人を越す一大鉱山町と
なっていました。坑木などは、細野から
舟や牛で運び、冬はそりで運びました。
当時、小屋数五十六軒、商売小屋三十一
軒、湯屋二軒など九十二軒がありました。
鉱石粉碎用の水車六台、製材一軒、金蔵、
山周り役人たちの小屋は別に建てられて
いました。今でも、桧原湖の北側では、
金鉱石や砂金を採集することができます。

参考文献「会津路 武士の世の裏磐梯」

（文責 石田明夫）